



千代田堰堤

大正

昭和

水田に水が引けるように

十勝では明治の中ごろからコメ作りが取り組まれており、現在の池田町利別、千代田地区でも水田が大きく広がっていました。

昭和10年に建設された千代田堰堤（ちよだえんてい）は、十勝川から水路を引いて水田を安定的にうるおすための農業用取水施設です。

一方で、同時期に実施されている統内新水路の工事により、勾配の関係から川の底がけずられるおそれがあったため（河床洗掘）、この対策もかねて工事は行われました。

千代田堰堤をつくることで、十勝川の水をいったんせき止めるすることができます。水の流れがゆるやかになって川底がけずられにくくなるのと同時に、水面の高さが一定になり、水田への水をいつでも引けるようになりました。

ところが昭和年間のたび重なる洪水によって千代田堰堤も被害を受け、特に昭和50年8月台風での河床の異常洗掘をきっかけに、堰堤を2段階に増やす改修工事（写真=下から2枚目）が行われました。これにつづいて、千代田堰堤の治水上の課題を解決するため、平成7年に千代田新水路の整備が着手されます。



千代田堰堤の建設工事
(昭和7年～10年)

洪水被害を受けて改修
補強工事中 昭和52年
3月（十勝川写真で綴
る変遷）



昭和58年の千代田堰堤。平成7年より千代田新水路の整備着手



十勝エコロジーパークの一部として公園整備され、観光名所としてにぎわう

土木遺産認定

千代田堰堤は平成16年11月、土木学会選奨土木遺産に認定されます。「国内有数の農業王国十勝の礎となり、十勝川治水開闢（かいひゃく）の歴史を伝える大規模固定堰」が選奨理由でした。

堰堤から流れ落ちる流水の壮大さもさることながら、秋季には産卵のために遡上してきた多くのサケがみられることから、観光名所の一つとして多くの観光客が訪れています。周辺は十勝川千代田堰堤公園として整備されました。

近年では、古くからサケとかかわりの深かったアイヌ民族による伝統舞踊のイベントも毎年開催されています。



サケ捕獲場の作業風景

十勝川千代田堰堤公園

一方で、千代田堰堤は採卵用のサケ捕獲場としても重要な役割を果たしてきました（写真=左）。十勝の歴史と風物を伝える施設として、現在も人々に愛されています。

平成

令和

100年